

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-137	21-046	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Cross-country differences in age trends in alcohol consumption among older adults: a cross-sectional study of individuals aged 50 years and older in 22 countries                      高齢者における飲酒量の年齢推移の国別比較：22 カ国における 50 歳以上の横断研究</p>		
<b>執筆者</b>		
Calvo E, Allel K, Staudinger UM, Castillo-Carniglia A, Medina JT, Keyes KM.		
<b>掲載誌</b>		
Addiction. 2021 Jun;116(6):1399-1412. doi: 10.1111/add.15292.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
高齢者、国際比較		33241648
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>                      高齢者では若年者に比べて飲酒の健康影響は強いと考えられる。本研究では、50 歳以上成人を対象に飲酒量及び飲酒パターンの多様性を評価し、さらに国別比較を行った。</p> <p><b>方法：</b>                      2010 年に 22 カ国で調査された飲酒状況の調査を比較した。50 歳以上の計 106,180 人が対象である。国別の年齢推移は、週あたりの標準飲酒 (drink) 数、飲酒パターン (非飲酒、禁酒、機会飲酒、適量及び多量飲酒) について検討した。加齢による飲酒量減少の国別比較は Human Development Index、ウォッカの値段などを用いた。</p> <p><b>結果：</b>                      飲酒量は年齢と負の関連を示した (リスク比 0.98) が、その関連は国によって異なった (尤度比検定 <math>p&lt;0.001</math>)。国の発展度や酒の値段は、国による飲酒量の多様性の 31% を説明した (尤度比検定 <math>p&lt;0.001</math>) が、多量飲酒者割合の多様性は説明できなかった。</p> <p><b>結論：</b>                      高齢者の飲酒や有害飲酒は、国や年齢による多様性を認めた。この多様性の一部は、国の人口構成や発展度、酒の値段などの要因によって説明可能であった。</p>		